

DBSオムロン基金 2024年度秋学期公開セミナー

研究プロジェクト：京都の伝統工芸職人の暗黙知・身体知の言語化についての質的研究

匠の目利きとは何か

PART 2

GO ON DBS京都工芸理論研究会とは？

伝統工芸事業経営者の暗黙知とは？

伝統工芸職人の身体知とは？

目利き・センスとその限界について

GO ON DBSの工芸理論と実践コースについて

2025年2月21日 (金)

18:00～20:00

(17:00 開場)

同志社大学 寒梅館 211

講師紹介

中川周士 中川木工芸比良工房 主宰

小菅達之 株式会社公長齋小菅 代表取締役

八木隆裕 株式会社開化堂 代表取締役

辻 徹 金網つじ 代表取締役

松林豊斎 朝日焼十六世窯元

細尾真孝 株式会社細尾 代表取締役

崔 裕眞 同志社大学大学院ビジネス研究科 教授

京都はハイテク産業と共生する老舗と伝統産業で世界的に知られた古都であり、同志社大学も常に地域経済の重要な主役として様々な産学連携に取り組んできました。伝統工芸の世界で培われた職人たちの技、技術と知識は、日々の不断な努力の積み重ねの賜物です。匠とは、まさに職人の暗黙知と身体知そのものなのです。そして、職人とともに伝統工芸にの事業経営者にも高度な匠の知識体系が必須となります。それを「目利き」または「センス」と呼びましょう。では、その卓越なる工芸職人・経営者らの目利き（センス）の世界とは如何なるものでしょうか。

本セミナーでは、国内外で大活躍中の工芸職人・事業経営者6名と、同志社大学大学院ビジネス研究科教授 崔 裕眞を講師とし、京都の伝統工芸職人・事業経営者の経験と知恵を日々の工房・作業場・展示会や販売現場での生の体験とケースをから学習します。続く合同トークセッションでは、「匠の目利き」の本質と特性、今後のさらなる可能性について講師とともに考察する機会を提供します。奮ってご参加ください。